

# 研究通信

No.68

1969.12月刊  
村落社会研究会  
事務局  
東京学芸大学  
社会学研究室内

## 第一七回大会からの報告

柿崎 京一

第一七回村研大会はさる十月一日、二日の両日、丹波篠山で盛會裡におこなわれました。大会の印象を当日参加されたなかっただ方々のために柿崎氏にまとめていただきました。

大学法の強行採決―施行という非常事態に直面し、各大学とも緊迫した局面に進展しつつあったため、一時は大会の開催も危ぶまれる客観情勢であった。とりわけ、事務局の関西学院大学は長期にわたり全共闘学生による全学封鎖の中で大会準備を進めていかなければならないという最悪の状況下にあった。こうした困難な事態をのりこえて、予定通り大会開催を実現しえたことの意義は大きい。

大会の共同課題は当初「村落社会研究の方法」ということであったが、大会前の研究会も殆んど行われず、また課題報告を積極的に希望する会員も居らぬままに、結果的には大会運営の一切を事務局に委任するということになり、万事、余田・光吉両委員の御努力によって大会のスケジュールがかたまるという裏舞台に支えられて開催の運びにいたったことを、この機会にまずもって明記しなければならぬと共に、感謝の意を表わしたい。

## 第一回研究会開催案内

後掲のように第一八回大会の共通課題は「村落社会研究の方法」と決定いたしました。この課題にそって今年度は何回かの研究会を開く予定であります。第一回は、変動する今日の農村社会においていかなる研究課題が設定されるべきかといった点を中心に、村研大会における課題のとり扱いの方向などについて論議することとしたいと思います。多数の方々の御参加を期待します。

一、日時 昭和四五年一月一七日(土) 午後三時～六時

一、会場 東京都文京区本郷六―一六―四(東大正門前を入り右側) 文部省共済組合 本郷会館 電話八一三―四四〇八

一、報告者 安原 茂・園田恭一 両氏

## 年報第六集原稿募集

年報「村落社会研究」第六集の原稿を左記により公募します。第六集には後掲のように編集委員会から依頼した原稿以外に会員からの寄稿をもとめて掲載する予定になっております。申込まれた中から、編集委員会の選定により、寄稿をお願いすることになります。

申込〆切 昭和四五年一月十日(題目と簡単な内容の説明をつけ、事務局まで申込んで下さい)

原稿は四〇〇字詰八〇枚程度で、四五年三月末日〆切。

本年の大会は、以上のような背景のもとに開催されたのであるが、大会報告者はもとより、大会参加者の数も例年に劣らず、しかも充実した大会内容であった。とくに、本年度大会では、(1)大学院生をはじめ、若い方々の新入会員の参加が目立ったこと。(2)大会開催地である丹波篠山にちなんで「近畿北部農山村」の特集を行ったこと、の二点においてきわめて印象的な大会であったように思う。

大会第一日目の午前自由報告では、いずれも現代農村を対象とした、新進気鋭の研究者によって多くの問題が提出された。とくに、その際、農民生活が多様に分化し、生活領域の拡大しつつある現代農村を、どのような視点から、どのような方法で切り込んでいったらよいか、といった疑問があらためて考えさせられた。

第一日目の午後の報告は、「近畿」特集であった。報告者は、どなたも長年にわたって近畿をいし中国農山村の実証研究をすすめてきている方々であり、しかも社会学(松本・米村)・経済史学(岡)・民俗学(竹田)という、まさに「村研」の本領を発揮した、各学問分野からの村落研究の報告であった。報告の内容は、年報第六集に掲載予定なので、ここでその内容及ぶことは割愛したいが、第二日目の午後に予定されている共同討議のテーマ「村落社会の変動」の展開に、大きな関心を引きつける内容のものであった。

第二日目の午前中は自由報告二題と、前日の特集報告に予定していた竹田睦州会員(本大会を機会に入会)の報告がなされた。自由報告を予定しておられた内藤会員は、大学紛争のため出席できず、テープに吹き込んで録音報告に代えるという御苦心を払われた。会

員相互の心安さから、とかく大会参加申込などイーजीになりがちな傾向に対して反省させられる一事であった。また、米村・竹田両会員のスライド併用による発表は、報告内容の理解に大変役立つことも併記しておきたい。

第二日目の午後は、事務局の提案された共同討議のテーマ、「村落社会の変動」に即して、近畿北部村落の中世から近世・近代への変動、および自由報告で出された現代村落社会の変動の報告を中心に討論の展開を企てた。その際、各報告の中で共通してみられた一つの問題は、身分・階級といった階層の問題であり、討議の焦点を、この階層問題にあわせ、村落の階層性を変動分析の視点にすえて討議が行われた。

討議の内容については、いずれ司会者団の代表によって取りまとめることになっているので省くが、「村落研究の方法論」が、実証研究に即して討議され、それぞれに強い問題関心をいだかせたことは大きな収穫であったように思う。

共同討議の終了後、事務局のはからいで、丹波篠のカマ元見学の機会をえた。夕色迫る丹波の山なみを眺めながら、篠山藩五万石の歴史をふりかえり、伝統芸術をまのあたりにみて、しばし時のたつのを忘れた。第一日目の夜、懇親会の席で頂戴した丹波焼の「グイ飲み」と共に、丹波篠山大会は、永く忘れえぬ思い出となることだろう。

本年度の大会は、このような、いろんな意味で村研にとって意義の深い大会だったように思う。それだけに、事務局を担当された、余田・光吉両委員および関西学院大学の学生の方々のなみなみならぬ御努力のためものと厚く感謝しなければならぬ。

## 第十七回 村落社会研究会

## 総会報告

日時 十月一日(水) 午後五時より

場所 兵庫県多紀郡篠山町 ささやま荘

議題および議事内容

- 一、事務局報告 事務局担当の余田博通運営委員より、運営委員会および事務局の活動経過について報告。
  - 二、昭和四十四年度会計中間報告 資料にもとづいて、光吉利之運営委員より報告
  - 三、昭和四十四年度編集委員会報告 小池基之編集委員より年報第五集の編集経過と村落社会研究叢書の第一冊として、岩本由輝委員の著書を出版する予定である旨の報告がなされた。
  - 四、次年度事務局の決定 次期事務局は東京学芸大学に決定。なお、大会開催地は東北地方とし、大会主催校を東北大学に決定した。
  - 五、愛知大学村落研究文献センターについて 川越淳二委員より愛知大学に設けられた村落研究文献センターの設立主旨および事業の進行状況について報告がなされ、村研の積極的な支持を求める提案があり、拍手をもって承認された。以上
- なお、四十四年度会計決算および第十七回大会会計の決算は、つぎの通りである。総会の報告にあわせて御覧いただきたい。

## 大会特別会計報告

収入の部	
大会参加費 (500円×57人)	28,500
懇親会費 (500円×56人)	28,000
食事宿泊費	154,460
一般会計より補充	4,051
計	215,011
支出の部	
懇親会および食事宿泊費(税込)	206,400
大会諸雑費	8,611
計	215,011

## 昭和44年度会計決算報告

(昭和43.11.21～44.11.13)

収入の部	
前年度繰越金	54,650
会費収入	53,400
銀行利子	450
計	108,500
支出の部	
研究通信印刷費	31,600
同上郵送費	13,750
通信費	4,015
消耗品費	890
雑費	550
計	50,805
次年度繰越金	57,695

## 第一回運営・編集合同委員会記事

十一月十七日夜、本年度第一回の委員会を開きました。出席は、中野卓・島崎稔・高山隆三・安原茂・柿崎京一・蓮見音彦。

〔編集委員会関係〕。年報第六集の編集につき協議しました。すでに、大会の際の委員会で、第六集を「近畿北部農山村の村落社会」の特集という形で、大会での報告者の方々に寄稿していただくことをきめ、すでにそれぞれお願いしてありますが、この他に会員からの公募にもとづき、一、二篇の寄稿をお願いすることとしました。

この分の選定は一月中旬の次回委員会で行なうこととし、それまでに公募の事務をすすめることをきめました。この分の公募については、この研究通信第一頁に発表してあります。なお、公募分は、特集テーマと関係なく自由にテーマを選んでいただくことを確認しました。つぎに、大会での共同討議については、今回は年報に収録しないこととしました。また、研究動向の執筆者についても協議し、それぞれの方に早速お願いすることとしました。執筆をお願いする方々のお名前は御承諾いただいた上で、研究通信に発表しますので、抜刷送付など会員の方々の御協力をお願いしたいと思います。

。かねて準備をすすめてきた研究叢書第一巻が明春一月に刊行され、今後年一巻宛程度刊行をすすめることがのぞましいので、さきに福武委員の下に申込まれた方々について、第二巻の編集の準備をすすめることとしました。

〔運営委員会関係〕。事務局のひきつぎが行なわれたことが報告

され、今年度は東京学芸大学に年報編集事務を含めて経常の事務局をおき、大会は東北大学のお世話によって開催することを確認しました。なお、委員会開催の便宜上、今年度は運営委員会と編集委員会の合同委員会を原則とすることとし、両者で協力して事務処理に当ることをお願いしました。

。関西学院大学より送附されてきた決算報告（前頁参照）について承認し、大会特別会計の一般会計による充当は、すでに一般会計の決算がすまされているため、四五年度会計から充当することとしました。

。東北大学塚本委員からの連絡により、現在のところ東北大学としては、明年の大会をほぼ例年通りの日本社会学会大会の前に、宮城県周辺において開催することを考えていることが紹介されました。

。明年の村研大会の共通課題は、今年の課題として予定されていた「村落社会研究の方法」とすることと決定しました。この課題をどのような意味でとりあげ、どのように論議してゆくかについて、委員会の席上若干の意見交換が行なわれましたが、重要な問題であるので、会員からの要望をきくとともに、大会に先だって研究会を何回かひらいて逐次つみあげてゆくこととなりました。そして、課題の扱い方の大筋をさだめ、その後の研究会のすすめ方などについて検討するため、明春一月十七日(土)に第一回の研究会を開くことを決定しました。この研究会は、会員多数の参加をもとめ拡大運営委員会といった意味で、課題のとり扱い方について協議することを予定しております。

## 村落研究文献センターについて

総合報告で御覧のように、今年度から愛知大学に「村落研究文献センター」が開設されました。村落研究にとって重要な文献がなかなか入手できず、所在も不明で閲覧や複写が不可能なために利用できないという現状を打開して、研究の累積効果をたかめるために設置されたものであります。これまで発表された資料・論文類を、古いものから最近のものまで蒐集していますが、村落研究者各位が執筆された文献目録をあつめ、さらに論文抜刷などをお送りいただき、整理の上、目録の作成、文献の閲覧、複写などの便宜をとりはからう予定になっております。開設以来かなりの方々から文献目録および論文抜刷などの御送付をいただきましたが、まだ予想数の三分の一程度にとどまっております。村研メンバーの方々には大部分ご案内が届いていることと思いますが、なかにはもれた方もあるかと存じますので、これまで発表された広い意味での村落研究の論文の題名と、保存されている場合には抜刷などをお送りいただきたいと思っております。また今後も発表された論文の抜刷を一部ご惠贈下さるようお願い申し上げます。センターでは、できるかぎり各位のご便宜をはかる所存であります。会員各位の御協力を切に期待します。

照会先

豊橋市町畑町

愛知大学総合郷土研究所内

村落研究文献センター

郵便番号

四四〇〇

責任者

川越淳二

## 年報「村落社会研究」第五集刊行

内容は左の通りです。定価一四〇〇円、会員は一二〇〇円で、稿書厚宛直接お申込下さい。振替は東京八七八二番です。戦後におけるカツオ・マグロ漁業の展開と村落の変容

農民層の「生活の論理」と農村社会再編過程

農家生活構造の変動分析

開拓農村における農民層分解と社会諸関係の変容過程

「村落社会変化の推進力」をめぐって

史学・経済史学における研究動向

経済学における村落研究

社会人類学における研究動向

社会学における村落研究

牧野 由朗

布施 鉄治

柿崎 京一

民秋 言

鎌田 哲安

安原 茂

矢木 明夫

常盤 政治

蒲生 正男

田原 音和

## 「村落社会調査研究叢書」近く刊行

かねて計画されてきた「村落社会調査研究叢書」の第一巻として、岩本由輝氏の労作が、明春一月下旬刊行の予定です。詳細は通信次号でお知らせします。

## 新入会員紹介

矢谷慈国 関西学院大学

大阪市西区本田町二の二一

吉田 正 追手門学院大学

大阪市東住吉区山坂町四一二七

福井春美 北海道大学大学院

札幌市北二八条西七丁目 富久美荘

丸山 勇 北海道音威子府高等学校

北海道中川郡音威子府村市街 公住日の出一の六

伊藤 繁 北海道大学大学院

札幌市北十九条西六丁目 高畑方

岡 光夫 同志社大学

京都市左京区北白川丸山町一の五一

竹田聰洲 同志社大学

京都市左京区田中門前町一〇三

## 会員名簿訂正

松原治郎 東京都北多摩郡久留米町滝山五一七七一

原 宏 松江市北堀町一四四

川本 彰 東京都小平市美園町三三九一二三

黒崎八洲次良 北海道函館市花園町三七 RC五〇一―二七

田野崎昭夫 神奈川県川崎市上麻生一八二二―三

園田恭一 船橋市若松二丁目団地 五―一〇―五〇四

塚本哲人 仙台市北四番町一七―三

雪江美久 仙台市荒巻字青森 宮城教育大学職員宿舍二―二五

戸谷 修 愛知県碧海郡知立町昭和五丁目六―七

退会会員

岡田 謙

## 会費納入のお願い

別項でお知らせしたように、今年度は何回か研究会を開催し、その模様を通信を通じて出席されなかつた会員の方々にもお知らせし、大会へのつみあげをはかってゆきたいと考えています。そこで研究通信の発行の費用や送料などがかさみますので、多数の会員の方々に会費をおさめていただくよう御協力をお願いしたいと思います。現金費留で事務局あてに、あるいは振替口座（東京八〇二二七、村落社会研究会）を利用して御送金いただければ幸いです。

なお本会会費は年額七〇〇円です。

## 会費受入報告

月日	氏名	金額	納入済 年 度	月日	氏名	金額	納入済 年 度
10.1	花島政三郎	500	44	10.1	雪江美久	1,700	44
	土居平	2,200	〃		塚本哲人	1,700	〃
	安原茂	700	〃		黒崎八州次良	700	〃
	宮川実	1,700	〃		村長利根朗	1,200	〃
	鎌田哲宏	1,200	〃		武田良爽	700	〃
	舛田忠雄	1,700	〃		白樫久	1,200	〃
	吉沢四郎	1,200	〃		中屋紀子	700	〃
	東敏雄	1,200	〃		福井春美	700	〃
	酒井恵真	700	〃		米村昭二	1,200	〃
	坂井達郎	700	〃		宇田川順子	1,200	〃
	清水由文	700	〃		松本通晴	700	〃
	大淵英雄	700	〃		阿部とし子	1,200	〃
	戸沢行夫	700	〃		牛島盛光	4,100	〃
	宮崎俊行	1,200	〃		三浦文夫	1,700	〃
	島本彦次郎	1,200	〃		安藤慶一郎	1,200	〃
	岡光夫	700	〃		丸山勇	700	〃
	竹田聰洲	700	〃		中川勝男	1,200	〃
	矢谷慈国	700	〃		伊藤繁	700	〃
	吉田正	700	〃				
	余田博通	500	〃				
	光吉利之	1,200	〃				
	小池基之	700	〃				
	後藤和夫	700	〃				
	柿崎京一	700	〃				
	島崎稔	1,200	〃				
	田野崎昭夫	500	〃				
	松原治郎	700	〃				

## 事務局短信

◇ 篠山大会で事務局をおおせつかることになりました。所用で村研大会を欠席したところ、このような決定になり、東大裁判に先だつ欠席判決と恐縮しております。十分に事務をこなせる態勢とはほど遠いのですが、あの程度の事務局なら誰でもできるといふことで、多くの方が順次事務局をひきうけられやすくなる一助になればよいのではないかとも思っています。

## 事務局の連絡先は

東京都小金井市貫井北町四一―一

東京学芸大学社会学研究室内 村落社会研究会事務局

電話 ○四二三―二二一―七四一 内線三一八

です。今年も年報事務局も一緒ですので、当面一切の御連絡は右宛にお願いいたします。なお、大会は東北大学で開催をひきうけられましたので、直接の大会事務はそちらでお願いすることになると思いますが、そのための連絡先は、おつてお知らせいたします。また、年末年始など休暇等のため緊急に御連絡いただくのには、大学は不便ですので、そのような場合は、蓮見自宅へ御連絡下さい。住所は

東京都中野区中野六一四―五 蓮見音彦

(電話 ○三―三六八―二〇六七)

であります。

◇ 東京教育大学で事務局を担当された、六八年度のような事務局体制はありませんので、研究会の記録がどの程度できるかまだわかりませんが、次回の研究通信は、一月十七日の研究会の報告を中心にお送りする予定です。大会のもち方、課題に関連したこと、研究会のもち方、等々御意見をおよせ下さい。適宜通信に掲載させていただきます。◇

「村落社会研究の方法」という課題は、今のところきわめて抽象的ですので、このままでは大会の共通課題としては扱いにくいと思います。会員の方々の御尽力によって、論じありべき焦点を明確にしてゆくことが不可欠と思います。来年の大会までにその仕事が出来だけ進められるかが、大会を穩り多いものにする事ができるか否かの重要な鍵だと思しますので、会員の方々から多数御意見をよせられるよう特にお願いしたいと考えています。◇

年報第六集の研究動向のうち、社会学について後藤和夫氏にお願いいたしましたところ早速承知していただきました。社会学関係の方は、六九年四月から七〇年三月末までに刊行された論文などの抜刷あるいは、題名などを左記あてお送りいただき、同氏の執筆に御協力下さい。他の分野の方は次回にはお返事をいただけると思しますので御知らせします。

豊橋市牛川町南台三九

後藤和夫